

## 2015(平成27)年度NBRPショウジョウバエ運営委員会 議事要旨

日時：2015(平成27)年10月23日(金)14:30～16:20  
会場：情報・システム研究機構 東京連絡所会議室

出席者：小嶋(委員長)、井垣、嘉糠、上川内、木村、倉永、後藤、佐藤、鈴木、高野、  
多羽田、丹羽、松尾、松田、山崎、上田 の各委員

欠席者：明石、和多田 の各委員

オブザーバー：伊藤、都丸(工繊大)、栗崎(杏林大)、近藤、矢野(遺伝研)

事務局：国立遺伝学研究所知的財産室長、総務企画課長、研究推進チーム

### 【議事】

#### 1. 平成26年度の実績について

#### 2. 平成27年度の計画と進行状況について

資料1に基づき、以下の各機関の代表者より前年度の報告、今年度の計画と進行状況について説明があった。

##### 国立遺伝学研究所(上田)

「ショウジョウバエ遺伝資源の総合的維持管理及び提供」

- ・ハーバード大学と共同で、TRiPシステムをNBRPのストックセンターにて収集、整備し、公開(H27.1)した。
- ・NBRP公募(ゲノム情報等整備プログラム)に近藤助教が採択された。
- ・RNAiシステム(8,718系統)がNIGFlyから公開されている。
- ・H26年度事業報告(RNAiシステムの収集・維持・提供、バックアップ体制の整備、データベース整備、広報、遺伝子組換えシステムの復元)について
- ・H27年度事業計画(リソースの収集・保存・提供・バックアップ、運営委員会開催、データベース改良、広報活動)について
- ・Cas9ゲノム編集技術を使ったミュータントのコレクションを作成し始めたが、今後このようなシステムを収集し公開していきたいとの説明があった。

また、以下の意見交換が行われた。

- ・NBRPプロジェクトがAMEDに移管され、今後の方向性については明確にされていない。
- ・第3期が今年を含め2年で終了するため、第4期の準備をしていかなければならないが、分担機関はそのままでもいいのか等、運営委員会で討議していきたい。
- ・今後、研究者の退職が相次ぎ、引き継ぎできない場合はシステムをどうするか等検討していかなければならない。また、受け入れるにあたっては取捨選択が必要である。

##### 京都工芸繊維大学(高野)

「高品質かつ基盤的なキイロショウジョウバエリソースの収集・維持・提供」

- ・H26年度事業報告(システムの収集(545系統)・維持・提供(12,466系統))について、ほぼ目標達成している。
- ・H27年度上半期の報告(システムの収集(1,234系統)・維持・提供(5,312系統)、リソースの品質管理、ユーザー対応、広報活動)について
- ・国内で新システムを作出する研究者の支援。
- ・愛媛大学のシステムを受け入れる準備のため、今年度は若干予算が多く配分された。
- ・営利団体からの提供依頼について、MTAを整備し、許可を得ているもののみ提供することとなった。
- ・中国開催のAPDRGにおいて広報活動を行った。
- ・H27年度下半期の報告(システムの収集・維持・提供、データベースの充実、リソースの品質管理及び向上、情報公開・広報活動)について
- ・ヒトのゲノム断片を組み込んだショウジョウバエシステムについて、今後、収集及び提供していきたい。

- ・組織改編により「ショウジョウバエ遺伝資源センター」から「先端昆虫研究推進センターショウジョウバエ遺伝資源研究部門」に変更し、「DGRC」から「KYOTO Stock Center (DGRC)」に変更。

#### 愛媛大学（代理：上田）

##### 「アジア産ショウジョウバエ野生系統の収集・維持管理・提供」

- ・H26 年度事業報告（収集（1,553 系統）・維持・提供、ホームページ作成）について
- ・維持困難な 200 系統はアルコール標本として保存、維持している。
- ・H27 年度事業計画（野生系統の収集・維持管理・提供、データベースの充実、バックアップ、広報活動）について、第 3 期の計画として 1500 系統収集、保存数は追加で 150 種。
- ・野生系統の画像データベースを充実させた。
- ・第 4 期において、アジア産ショウジョウバエの収集・維持・提供事業を工織大へ事業移管のため準備を行う予定である。

#### 杏林大学（松田）

##### 「ショウジョウバエ近縁種突然変異系統の収集・維持管理・提供」

- ・H26 年度事業報告（近縁種突然変異系統の収集・管理・提供、系統維持のバックアップ、近交系統及びバランサー染色体の作成、データベースの充実）について、simulants の突然変異系統の維持。
- ・MTA の手続きについて、ホームページから出来るように整備した。
- ・H27 年度事業計画（リソースの収集・保存・提供・バックアップ、データベースの構築）について
- ・来年度、事業代表者を松田客員教授より粟崎教授へ変更するとの申し入れがあり、計画内容、特に維持管理系統の取捨選択について検討するとの発言があった。
- ・キイロショウジョウバエ以外のトランスジェニック系統の収集を進める予定であり、近縁種の収集に関しても 1 種 1 系統ではなく 1 種数系統の維持を検討している。

### 3. その他

#### ①Jfly のサポートについて

- ・上田委員より、NBRP ショウジョウバエで Jfly をサポートすることについて、Jfly を盛り立てていく責任のある適任者を選出したいとの提案があり、佐藤委員が引き受けることとなった。また、単なるメーリングリストではなく、技術や研究に対して活発に情報交換できるようなものにしていきたいとの発言があった。

#### ②日本ショウジョウバエ研究会年会について

- ・後藤委員より、日本ショウジョウバエ研究会年会の会場について、立教大学では定期刊行物がない、責任者がいない等の理由により、学会として認められないため、会場決定に苦慮しているとの報告があった。
- ・鈴木委員から、東工大に確認することとした。

また、以下の意見交換があった。

- ・将来的にショウジョウバエ研究会の組織運営について討議した方がいいのでは。
- ・金額がかさむため会場は大学等の公共施設をお借りすることに頼らざるを得ない。
- ・会場が決まらなると日程も決められないため、プログラムの詳細を詰めることもできない。

#### ③NBRP の第 4 期に向けて

- ・上田委員より、第 4 期に向けてショウジョウバエのストックセンターとして将来の方向性について審議いただきたいとの発言があった。
- また、以下の意見交換が行われた。
- ・研究コミュニティで必要なリソースに関し、ゲノムワイドに行うにはランニングコストと時間がかかり導入は難しい。
  - ・研究者コミュニティの要望に貢献できるかという点に関して、今後の方向性を明

確にしておかなければならない。

#### ④NBRP の AMED への対応について

NBRP に関する AMED の考え方についての意見交換を行い、以下の発言があった。

- ・ リソース事業は、重要な研究資源が途絶えることなく研究者が容易に入手しやすいように、また、有用なリソースを保存していかなければならない。
- ・ 中間評価では「優れた水準に達している」との評価をいただいております、高い評価を受けている国際誌等に論文掲載されている数字の結果を強調するのも 1 つの方法である。

以上